

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300167		
法人名	株式会社ミヤマ		
事業所名	グループホームつばさ		
所在地	長野県上田市御嶽堂316-1		
自己評価作成日	平成27年9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北東に烏帽子岳を望む旧丸子町の依田川沿いにあります。それぞれのお部屋は明るく清潔で見晴らしが良いです。お風呂には肌がすべすべになると言われている室賀温泉のお湯を温泉水運搬車を使って運んで入れています。地域の病院の医師にかけつけ医になって頂き、その病院の看護ステーションと業務委託契約を結び、医療連携を密にとっています。「重度化対応・終末期ケア」については、「終末期ケア指針、終末期ケアに関する同意書」の整備を行い、看取り対応も可能です。家庭的な雰囲気を大切にしながら、季節感を感じて頂けるような行事を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共生笑喜の理念の下、職員が一丸となり利用者の思いに寄り添い家庭的な雰囲気ですっきりとやさしく時間が過ぎていく。特に利用者一人ひとりに話しかける職員の姿が印象的で常に笑顔でケアしていた。開所4年目になり、地域の中に溶け込もうと努力している姿が見られ、地域の方々も暖かく受け入れ、地区の行事等にも積極的に参加している。今までのなじみの関係の継続と共に新たななじみの関係が構築され安心と安らぎの場が提供されている。医療についても定期的に往診と訪問看護が入り家族や利用者にとって安心である。また、入浴は室賀温泉のお湯を利用したり、食事も利用者の希望するメニューが提供されたり、利用者一人ひとりの性格や成育歴を考慮した役割があり、残存機能を活かしたケアが提供されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>会社の理念である「誠心誠意」グループホームの理念「共生笑喜」を共に掲示し、朝礼などで確認しています。</p>	<p>会社の理念とは別に事業者独自の理念を作成し、共有スペースに掲げている。職員全体に理念が行き渡り、利用者の安心と心に添うケアで実践している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>防災訓練に地域の方に参加頂いたり、地域の行事に参加させて頂いたりすることで交流を深めています。</p>	<p>開所4年目になるが、地域の中に根ざし、地域の神社の春祭り、自治会の餅つき、地区のはっぴを借りての祭りの参加、等地区の行事に参加し地域とのつながりを密にとっている。また、参加した様子が地区便りに掲載されていた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の自治会長、区長、民生児童委員の方々に認知症の介護等でお困りのことがあれば、相談・支援する旨をお伝えしています。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>災害時の対応方法や行事の行い方など、運営推進会議の意見を取り入れ、サービスの向上に努めています。</p>	<p>区長、民生委員等参加していただき、事業所の様子を報告し、理解を図っている。また事業所での行事等に参加依頼をし、情報発信をしている。</p>	<p>事業所への理解も利用者とともに過ごすことで深まると思われるので、行事の際、運営推進委員会と同時に行っていくことも今後視野に入れることを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員に市の担当係長に出席して頂いています。また、市から派遣されている介護支援専門員さんに定期的に来訪頂き、利用者さんから傾聴して頂いています。</p>	<p>運営推進委員会に市の担当が出席することにより事業所の状況を把握しており、連携が取れている。また、安心相談員の派遣により、利用者の話を傾聴し、その内容についてカンファレンスを行い、ケアに活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階の入り口は階段に近く危険を伴う為、転落防止のため電子錠による施錠を行っています。グループホームのドアにはお声掛け頂ければ外に出られる旨の文章を掲示させていただき閉塞感を少なくする工夫をしています。	構造上2階の施錠はやむを得ないと思われるができるだけ施錠しない方向を模索している。短時間ではあるが安全を確保できる時は開放することも行い、努力が見られる。張り紙の文章にも気を遣い、利用者の気持ちを大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については職場内研修を行っています。認知症ケアの実践の中で高齢者の尊厳保持に気をつけ、体の観察も常時行っています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修に参加し、自立支援や成年後見制度について職員に内部研修を行うようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は概ね1時間から2時間の時間を頂き、十分に説明しご理解頂いた上で同意頂いています。契約前の問い合わせや見学時にもパンフレットなどを用いて丁寧に説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表として参加頂き率直なご意見を頂いたり、季節のお便り等を送付する際にご意見やご要望を自由に記述できる用紙を同封しご家族の希望を反映するようにしています。	来所時に家族から要望を聴いたり、要望書に記入していただく等行っている。実際に「お勝手仕事を出来るだけやらせて欲しい」との要望に答え行う機会を増やしたり、「職員の顔と名前が一致しない」との意見に対し、写真付きの職員のパネルを掲示し、迅速に要望に応えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時、常日頃気づいた事の内容を出せる機会を設けると共に、毎月の職員全体会において意見、提案を出してもらい、職員の意見を反映させるようにしています。	年に1回会長、社長 職員の三者面談があり要望を伝えている。また、月に1回職員会が開催され職員の意見等反映している。緊急で会議が必要な時も臨時で行われている。	各職員と管理者との個別の意見交換の場も今後設定していくことを期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は週に一度グループホームで昼食を摂り、職員や利用者様と会話をしながら現状の把握を行っています。施設長は毎朝の朝礼や行事に出席し勤務状況の把握をしています。管理者は常日頃の業務状況を把握するようにしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員一人ひとりに合わせて参加してもらい、研修報告を行うことでスキルアップに繋がります。グループホーム内でも職員会議時にミニ研修会を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者、管理者は他の法人の事業報告会に参加したり、外部研修に参加したりして、同業者との交流やネットワーク作りを進めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に自宅や入所中の施設に訪問し、安心できる環境の中で本人から今後の生活について不安な事柄を聞き出すようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前にご自宅に訪問したりグループホームに来所して頂いたりして、不安なことや要望についてお聞きするようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際はご本人や家族様から困っていることをお聞きし、必要としていることは何か見極め対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は研修などで認知症介護についての学習を行い、共同生活の中で共に生活している関係づくりをしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診はご家族様の支援を頂いています。行事の際はご家族に参加して頂き、本人と楽しいひと時を過ごして頂けるよう支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のお一人は1階の小規模施設に通所されおり、面会を頻回にされています。ご家族、親族、ご近所の方々との関係作りに努めています。	事業所のある地区からの入所者は一名のみで後の方は住所変更で来られたり、隣村の方が主になっている。そんな中での馴染みの関係は、新しく作り上げた現在の関係であり、十分に馴染みの関係が地域、個人共に出来ている。その新しい関係を利用者と継続していくことで安心が得られていいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、仲の良い方同士だけでなく、そうでない方についても関わり合いが出来る様職員が間に入って支えあえる関係作りをしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの関係を大切にしながらご本人やご家族様との電話連絡や面会などを行い、必要があれば相談を受け付けています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームで生活するご利用者様一人ひとりの生活歴や現状に合わせて思いや意向を把握しています。	一人ひとりの性格等に配慮したケアが見受けられた。事業所での役割が一人ひとりにあり、食事の片付け、洗濯たたみ、モップかけ等。また、その中で意欲を引き出すような言葉かけにも工夫が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握と同じく生活歴や馴染みの生活、サービス利用の経過についてご家族様や以前利用されていた施設のスタッフ等から暮らしの把握を行っています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり出来る事を把握し、心身の状況も踏まえて暮らしの現状把握をしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で全ご利用者様のモニタリングを行い、話し合いをしながらチームで介護計画を作成しています。ご家族様のご希望に即して計画を作成し、訪問看護や内科医師、歯科医師の意見を取り入れています。	利用者のケアについては、担当制になっており本人家族からの情報を担当が主に収集し、月1回の職員会で情報を共有し、モニタリングを行い、チームで介護計画を立てている。また、実施記録も分かりやすく制作されている。半年に1度計画見直しをし、状態によっては随時見直しもしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録に日々の状況を記録し、残しています。ケアプランに関してはケアプラン経過表を活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、買い物代行、個別の外出支援など柔軟な支援を行いサービスの多様化に取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の避難訓練には地域の皆様に協力して頂いています。今年の4月には地域の神社のお祭りに参加させて頂きました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>9名の利用者様のうち8名がかかりつけ医の往診を受けています。1名の利用者様も夜間や緊急時にはそのかかりつけ医に診て頂けることになっており安心した生活を送ることができています。</p>	<p>入所前からのかかりつけ医が継続し、往診も定期的に行っている。受診結果については、家族の来所時に伝えている。また、受診に出かける利用者については、事前に事業所での様子を家族に伝え結果についても家族から報告を受け、連携が取れている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医と同じ病院の訪問看護ステーションから週1回訪問看護に来て頂いています。管理者が看護師資格を持っているため、変化があった場合はすぐに連携をとる事が出来ます。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>内科的入院に関してはかかりつけ医の病院で診て頂けます。内科以外の診療が必要な場合は病院間連携を行います。入退院に関して必要に応じてカンファレンス等に参加し連携を図っています。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化対応、終末期ケアに関して管理者が研修会に参加し、伝達研修を行いました。ご本人、ご家族と話し合い、一人ひとりの希望に合わせた終末期が送れるよう体制作りと職員教育を行っています。</p>	<p>重度化した際には、時間をかけ、家族の意向を何度も確認し、揺れ動く家族の思いを受け止め、寄り添い、対応している。また、看取りの研修も行い、看取りに対する職員の育成も図っている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応について研修を行っています。応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身に付けています。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民に協力をお願いし、年2回の避難訓練に参加いただいています。避難方法については、全職員が対応できるよう訓練しています。</p>	<p>事業所独自に年二回夜昼を想定し避難訓練を行い、区長や民生委員にも参加いただき、見守りや安全確保をしている。災害対策のミニ研修会も月1回行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するよう心がけ、入浴や排せつ介助の際には誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしています。	排泄時には、「お着替えしましょうか」と声かけしたり、ポータブルトイレ使用時は、戸を閉める等行っている。入浴時には、できるだけ肌を出さない配慮をしている。呼び名についても、本人の意向を大切に声かけの呼び名にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定ができる対応を心がけています。ご自分で服を着る事が困難なご利用者様には着たい服を選んで頂くなどの対応をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしを大切に、個々のご希望に沿った対応を心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援しています。美容室に出かけたり、その日着たい洋服などを一緒に選ぶなど行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りができるご利用者様には手伝っていただき調理したり、食器の片付け等も一緒に行ったりしています。	日々の食事のメニューは決まっているが、当日利用者からのリクエストでメニューが変更になり、好きな食事を楽しむことができる。また、食事の用意片付けも役割が決まっており、積極的に職員と一緒にしている。(調理の下ごしらえ 洗い物 食器拭き等)	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の献立は栄養士が作成していますが、おやつは手作りのものを提供しています。季節の行事などの際は季節が楽しめるような献立を作り召し上がって頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つようにしています。定期的な歯科往診により口腔ケアもしっかり行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については一人ひとりの排泄パターンを把握し、対応するようにしています。尿意の無い方も日中は紙パンツでトイレ誘導などを行い、自立に向けた支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを確実に把握し、出来るだけ布パンツで対応し自立に向けての工夫が見られた。また、不潔行為に対しても、利用者が安心できる声かけで介助している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前のお茶時にカスピ海ヨーグルトを提供しています。午前と午後に体操の時間を設けて体を動かして頂いています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を心がけています。(個々に入浴予定日がありますが、希望に合わせた入浴が可能です)	入浴日は利用者ごとに決まっているが、意向に合わせて、対応している。入浴を嫌がる利用者については、日をずらしたり、声かけを工夫している。また、室賀温泉のお湯を運搬し、利用者に入浴を楽しんでいただいたり、季節ごとに、菖蒲湯やゆず湯など提供し、季節感も大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心穏やかに安眠できるよう支援しています。眠れない時は傍に付き添い傾聴するなどの支援を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中にご利用者の内服している薬について記されており、介護職員は副作用についても理解し状況の変化の確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、洗濯物たたみ、食器の片付け等グループホームの生活の中で役割を持ち、生き生き生活が出来る様支援しています。また、一人ひとりの嗜好や楽しみごとについても支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒冷地のため冬場の外出支援はやや困難ですが、暖かな日には出来るだけ戸外に出て活動出来る様支援しています。ご家族や地域の方々との交流も行っています。	暖かい時期には、利用者、家族、職員、全員で近くのレストランに出かけ、外食を楽しんだり、散歩に出かけたり、気分転換を図っている。また、季節感を味わう行事として、外でどんど焼きも企画していた。月1回程度、食材の買い物にも出る機会を設けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、買い物の楽しむことが出来る様支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚、友人からの電話の取り次ぎや手紙のやり取りが出来る様支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間などは心地よく生活出来る様に季節感が感じられるよう飾りを配置したり、生花を飾るなどしています。浴室やトイレなどの生活空間は心地よく過ごせるよう常に清潔を心がけ気持ちよく過ごせるようにしています。	居間には大きなソファが設置され、日中ほとんどの利用者が、思い思いに過ごしている。天井は高く開放感もあり、光も十分に取り入れられとても明るい空間になっている。トイレや浴室など利用者が迷うことないようはっきり大きく場所や名前が書いてある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には座り心地の良いソファを配置し気の合う利用者様同士ゆったり過ごせるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族と相談し、自宅で使用していた馴染みの物などお持ちいただき、出来るだけ家庭で過ごしていた時と同じように過ごせる様工夫しています。	居室はすっきりとし、窓からは、自然に囲まれた風景が見えている。居室での生活は、入所前の延長線で生活できるよう馴染みの物があったり、居室でも安心して過ごせるよう工夫されている。壁には、写真や作品が飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事わかる事をして生活が持続できるよう工夫しています。(トイレの場所が分かるよう表示する。居室には表札を掲げ解り易くするなど)		

目標達成計画

作成日:平成28年2月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		(事業所自己評価の確認)・報告、連絡、相談縦横の連携不足がある。ご利用者様の情報の共有を今以上に行い、一人ひとりの援助内容を確認し合うと共に統一したケアを提供する。	管理者、主任を中心とした連絡体制を強化し、利用者様の状況の変化などに対して、臨機応変に対応できるようにする。職員のスキルアップを行い、決定事項などの連絡が速やかに行えるようにする。	事業所内連絡網の強化。 朝礼、カンファレンス時に必要事項の連絡漏れを無くす。 職員は年に2回程度管理者、主任との面談を行い、目標設定や日頃困りごと等話せる関係を作る。	6ヶ月
2	52	(事業所のしつらえ、環境)・日中のケアはワンフロアで行い、夜間の宿泊室は個室である。排泄時の職員同士の声掛けなどプライバシーの確保がやや甘い点がある。	現在ご利用者様が全員女性であることもあり、プライバシーの保護に対して甘さがあるため、改善する。	認知症ケアについての研修を行い、職員の介護にばらつきが無いようにする。 プライバシーの保護については、「自分がされて嫌なことはしない」という気持ちを常に持って介護するよう職員教育する。	6ヶ月
3	20	(事業所と地域との関わり)・事業所のある地区の行事などに参加しているが、年に2回程で関係を築くには少ない。	神社の春祭り、年末の餅つき行事だけでなく、地域の公民館活動にも参加させて頂けるようにし、地域との関わりを深めていきたい。	現在参加している地区行事には引き続き参加させて頂き、地域住民との親睦を図る。 民生児童委員さんと連携しながら、地区の公民館行事に参加させて頂けるようにする。(おたっ者教室等)	12ヶ月
4	4	(運営推進会議を活かした取り組み)・2か月に1度の会議の開催のみで、関係作りがもう一つである。地域密着型としての施設運営において今一歩近づいた関係を作りたい。	会議に参加して頂くだけでなく、事業所で行う行事に参加を促し、地域の方々も一緒に運営して頂いているといった関係を構築する。	事業所行事に参加頂けるよう、案内状を作成し参加頂く。 運営推進会議に事業所の行事をバッティングし、グループホームの様子を見て頂く機会とする。	12ヶ月
5	35	(事業所の防災・災害対策)・今年度の事業所内の防災訓練において、通報及び避難がスムーズに行えなかった。	事業所内の防災訓練に地域の方々に参加して頂けるよう呼びかけを行う。事業所外で地区の防災訓練がある場合はこちらから参加して実際の避難経路の確認などを行う。	事業所の防災訓練に地区の方々に参加頂けるようお願いする。 地区(広域)の防災訓練に参加し、防災・災害対策を強化する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
目標達成計画